帯広商店街かわら版
いらっしゃい

無料
FREE
第１００号
帯広市西2南9
坂本ビル5階
帯広市商店街
振興組合連合会内
帯広商店街かわら版
いらっしゃい編集局
TEL23-6546

中心街の未来予想図に！

平成3年（1991）策定
商業近代化地域計画の検証
（ローリング事業）

平成2年に帯広商工会議所が主体となり、北海道通産局、十勝支庁、帯広市、商店街含めた多くの人々が加わり、帯広地域商業近代化委員会を発足し、都心部商業の位置づけ、十勝の中心に相応しい機能と構造を持った新しい商業集積について検討され、平成3年3月に具体的な提案として「商業近代化地域計画（ローリング事業）」の報告書が策定されました。ちょうど、鉄道連続立体交差事業とこれに伴う駅周辺の区画整理事業が進行している時でした。

この計画年次は平成3年から平成12年を想定し、基本方針として

1. 小売商業及び中心部の課題を重点的に取り扱う
2. 昭和50年代にしかれた都心部整備計画路線の具体化を目指す
3. 計画区域内とその他との機能のあり方を明確にする
4. 商業関係者の意向の反映と意欲喚起の計画
5. 都市計画及び商業振興に反映できる総合的で論理的施策の提案を心がける
6. 21世紀を視野に入れ、都市理念の確率について提言する

というものでした。

今振り返って読み起こすと、大変素晴らしい報告書で、この計画が実行されていれば現在の中心部空洞化に悩むことなく、日本で一番元気のある中心市街地になっていただろうと思われます。

この計画構想の一部をご紹介します。

「都市景観軸」

都心部において駅を中心に南西部と北部をつなぐ軸上に帯広・十勝の風土を象徴する景観軸を整備する。

1. 緑ヶ丘公園のグレードアップ。
2. 緑ヶ丘公園までの公園大通を散策道として環境整備。
3. 駅南広場に水辺公園
4. 平原通の駅北から十勝川までの修景の統一、都市機能集積中心地区のイメージアップ、中央公園との連絡
5. 平原通・大通間、北1丁目地区の公園化
6. 十勝川河川敷の親水公園化

「大平原ビル構想」

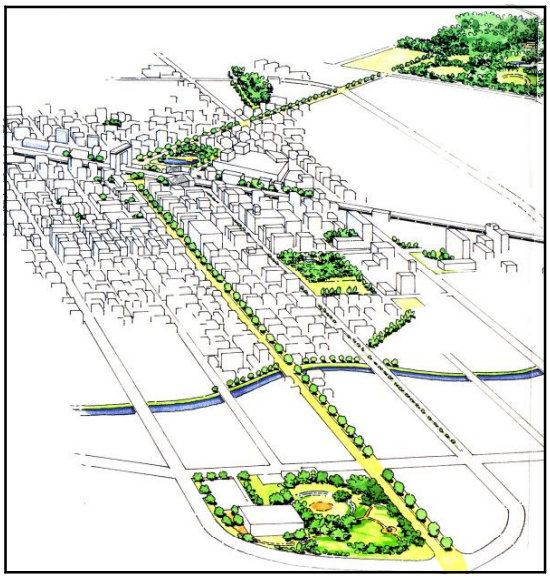
この歴史的事業・整備を内外に印象づけるため景観軸の中心である駅周辺部に高層ビルを建設する。

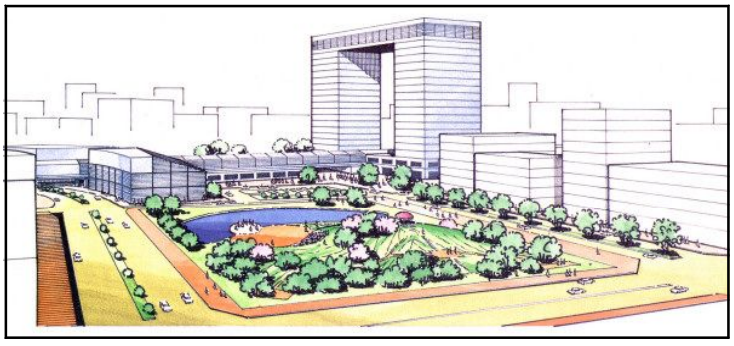
大平原ビル概要

1. コンベンション機能（会議場、展示場、ホテル）の導入
2. タワー機能（景観展望施設）の導入
3. 十勝と内外の情報交流機能の導入
4. 商業・サービス機能の導入
5. コミュニティ・文化施設の導入
6. 業務スペースの導入
7. 駐車場の設置

左のスケッチ図にありますが鉄道高架をまたぐ巨大な凱旋門のような建物がイメージされており、最上階からは十勝の財産である日高山脈が見渡せます。

駅南広場は大きな池と木々に囲まれた水辺公園としての整備計画です。





(上図)右上の緑ヶ丘公園から駅、そして十勝川へと都市景観軸として整備。
(下図)鉄道高架をまたぐ大平原ビル、駅南広場に水辺公園の整備。

都心部商業集積ゾーンは十勝の風土性を加味し「ビッグ・ポテト」名付けられました。この範囲は北は6丁目通、東は大通、南は11丁目通、西は都通りに囲まれた地区を想定しています。

このビッグ・ポテト内部の人の回遊動線は現在の街路による線的な構造から街区と街区を連絡し合う、面的な構造を考えています。

道路で囲まれた街区毎をそれぞれ再開発し、街区と街区は空中歩廊によって連結させる。車の動線は1階で人の動線は2階にすることで歩行動線の安全を確保すると同時に、雨や雪、暑さ寒さを遮断し快適な人の流れをつくります。

また、街区の中に細街路やポケットパーク、アトリウムなどを設置し安全な安らぎの空間を生み出します。

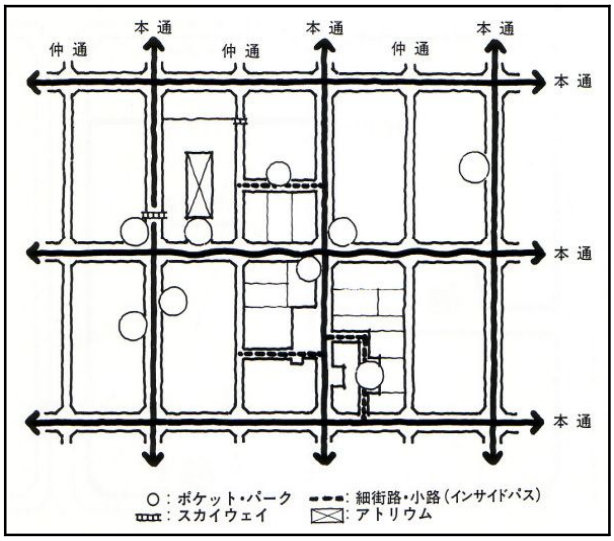
このような形態では道路を封鎖する歩行者天国は必要なく、冬が長い帯広では、寒さから解放された温かい快適なスペースを利用することが出来ます。

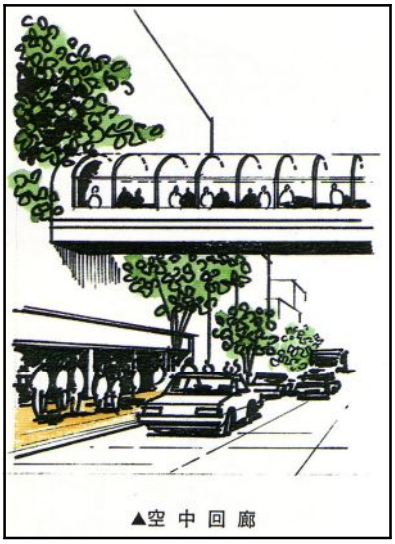
また、本通りはセットバックによりアーケードの空間を確保出来れば、大きな電気料経費がかかる歩道の融雪装置はいらないかもしれません。

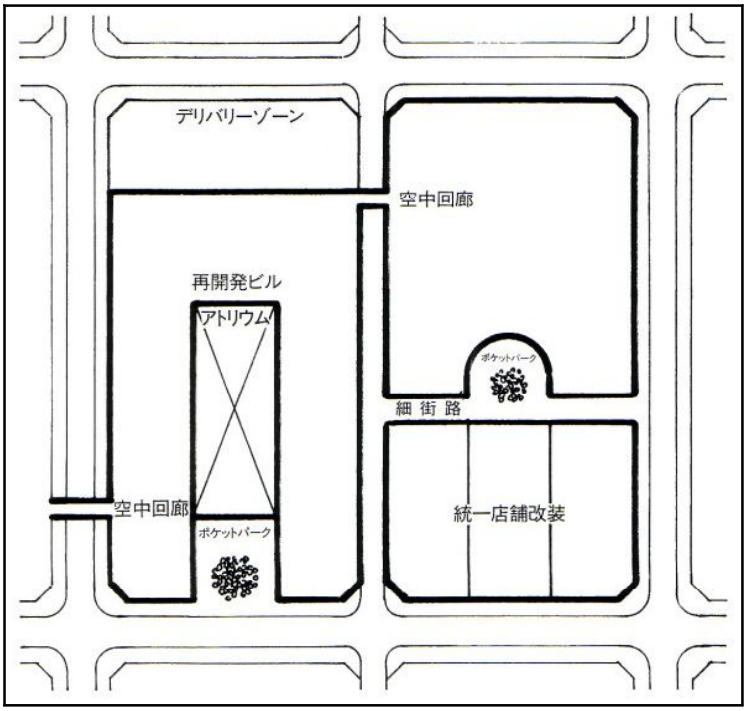
広小路商店街が全蓋アーケード建設計画を検討しているとき、最初の案は道路部分は公園で、1階・2階が店舗、3・4階は住居。歩道の上に2階歩廊をかけ、歩行者は主に2階を回遊するというものです。商店はブロックごとに連店舗化し建物内部で買い回れる壮大な計画がありました。

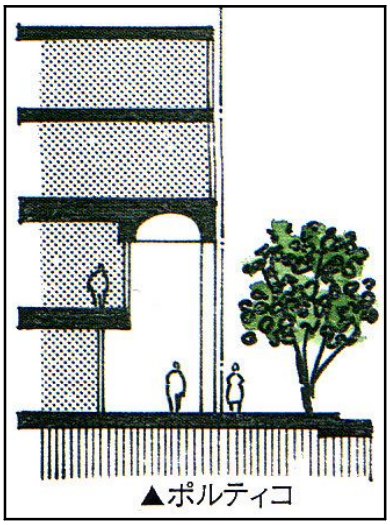
十勝のような広大な土地で暮らす人々にとって、車はどうしても手放せないと言われます。

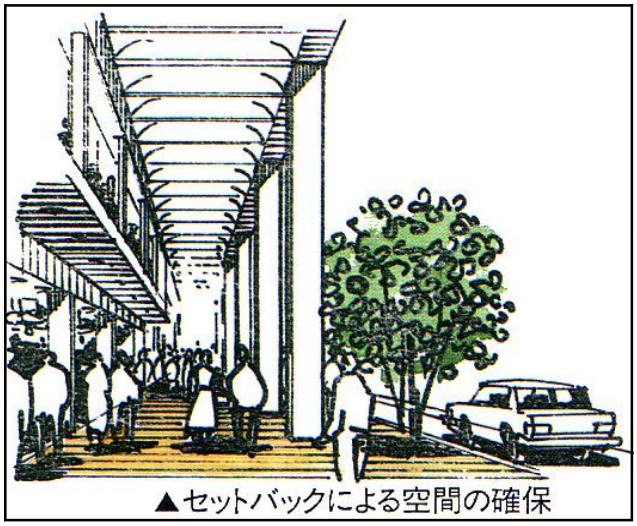
都心部において、車と人の




▲空中回廊




▲ポルティコ


▲セットバックによる空間の確保

通行がどうしたら安全に共生することが出来るかを考えると、人と車の流れを階層で分離するこのローリング事業の計画はとても素晴らしく感じます。

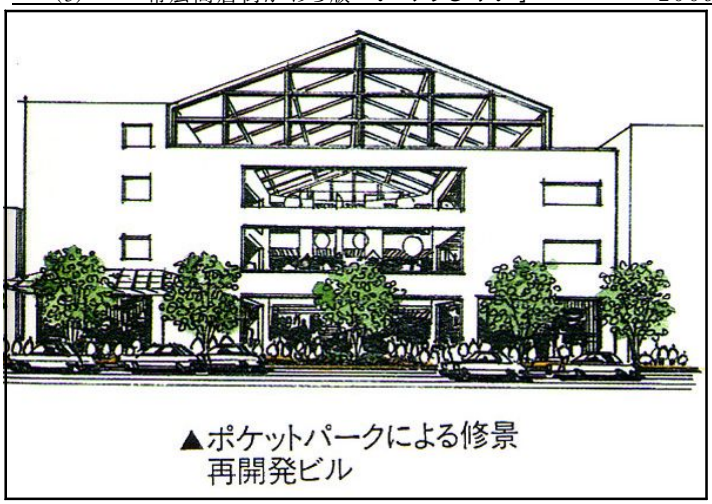
この当時はまだ景気が良く今日のような危機感はありませんでした。また、土地の評価額も高く、地権者の合意を得て街区の再開発に向かうには難しかったのかもしれません。

今、中心部を見渡すと、あちらこちらの建物が取り壊され、とりあえず駐車場に変わっています。また、現在営業中の店舗も戦後の古い木造建築が数多く残っており、そろそろ建て替えの時期を迎えます。

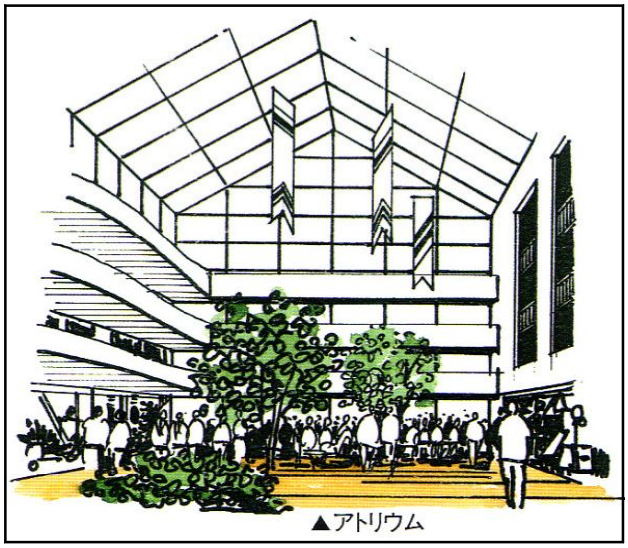
中心部商店街では後継者不足で店舗の継続が難しく、廃業する商業者も増える傾向にあります。

土地の価格が下がっている状況の中、定期借地権を設定し、土地を提供してくれる所有者の合意を得る可能性は大きく、今が計画実現に向けて動き出すチャンスかもしれません。

こんなまちづくりが出来れば、日本中の注目の的になりますネ。



▲ポケットパークによる修景
再開発ビル



▲アトリウム

▲細街路、ポケットパークによる
小路整備とショーウインドー化

いらっしゃい瓦版
100号発刊記念に寄せて
初代編集長　渡辺博子さん

「いらっしゃい100号」おめでとうございます。

長谷事務局長をはじめ、関係の皆様、本当にお疲れさまでした。

「いらっしゃい」は、最小限の経費、自分たちでできる範囲で何とか商店街をPRしたいとの思いでスタートした瓦版です。「瓦版を発行しよう」、「ネーミングをどうしよう」などと連日会議を重ねた日々を懐かしく思い出します。

月刊とはいえ、紙面を埋めるのは大変なことです。「来月号はどうしよう」。編集会議と称してランチを、ときには飲み会を、今思えば楽しい日々でした。商店街メンバー以外にも、市役所の担当部署の方、商工会議所の方、頼りになる助っ人がたくさんいらっしゃいました。

そのメンバーの商店街、まちなかに対する思いが、「ホコテン」へとつながっていきました。「バスでまちなかへいらっしゃい」の取り組み、「自慢の逸品」の取り組み、ここ数年で閉散としていたまちなかが、随分にぎわいを取り戻したと思います。インターネット、携帯電話と、人に直接会わずに連絡がとれる手段は進化し続ける一方です。そんな時代だからこそ、逆に直接会って話すこと、話せる場が大切だと感じています。

休刊は残念ではありますが、商店街、まちなかに対する思いを発信し続けた100号の「いらっしゃい」が、関係者の皆様、市民の皆様の記憶の片隅にとどまってくれたら、こんなうれしいことはありません。

いらっしゃい瓦版
手作りのミニコミ紙を毎月発刊！

買物共通バス券情報！

参加店にて2，000円以上のお買物をすると
100円の共通バス券が貰えます。

貰うためには、まず最初にバスに乗りましょう！十勝管内のバス路線なら、どのバスでもOKです。

降りるときにバスの運転席後部にある引換券ボックス(下写真)から買物共通バス券引換券をお取り下さい。バス乗車証明書になります。

2，000円以上の買い物精算時に、この券をお店に提出して100円のバス券と交換します。

バス定期券も乗車証明として
利用できることになりました。

バス券引換券と同じように、2，000円以上のお買い物精算時に「バス定期券」を提示すると100円のバス券をもらえます。

参加店の店頭には参加シール(右写真)が貼ってあります。

共通駐車券情報！

いま、帯広市商店街振興組合連合会では、買物共通バス券事業と同じように、お買上げ金額により駐車券を差し上げる「共通駐車券事業」を実施しております。

共通駐車券は、100円券・150円券・200円券の3種類の金券となっており、駐車料金の精算時に利用できます。

この駐車券事業には藤丸デパートなど中心部のお店130店ほどが参加しており、車でお越しのお客様へのサービスとして駐車券を提供しております。

帯広市商店街振興組合連合会のホームページが新しくなりました。

★いらっしゃい瓦版のバックナンバー(カラー版)
★中心部空店舗情報「あきねっと」
★帯広の街並み歴史写真館
★おびひろ商店街自慢の逸品
★共通駐車券・買物共通バス券事業

などが一覧できます。
また、事務局ページでは、帯広市の人口変遷データ、H16都心部マンション居住者アンケート調査結果、中心街の空き地分布状況の変遷、帯広のコンパクトシティについての考え方などを掲載しています。
もっとも新しい旬な情報をタイムリーに紹介していきますので、宜しくお願いします。

http://www.obsinren.com/(右下写真)

「まちなかブログ」もよろしく！

藤丸の歴史紹介や商店街の話を書いています。
http://obsinren.sblo.jp/(左下写真)

クイズで当てましょう！97　当選者発表

先月号の正解は①の「ドギーバッグ」でした。正解当選者は伊藤智恵子さん、山本紗妃さんでした。

これまで、たくさんの方からクイズの応募や温かい励ましの言葉を頂きありがとうございました。
感謝しています。

いらっしゃい瓦版は今月の100号発刊でしばらく休刊します！

平成12年(2000年)7月創刊以来、約9年を経ていらっしゃい瓦版も100号の発刊になりました。 初代編集長の渡辺博子さんから100号記念の寄稿文をいただき、また読者の皆さんからも「休刊するのは残念です。これからも頑張って下さい。」とのコメントをたくさん頂き、とても感謝しております。この瓦版は帯広市商店街振興組合連合会の中心部活性化協議会が街の中へたくさんのお客さんに来ていただこうと始めた事業の一つです。

これからも、「いらっしゃい」というお客様へのおもてなしの心を大切に、新しい事業の展開をメンバーと共に研究し実施していきたいと思います。長い間のご愛読ありがとうございました。(編集長　長谷秀紀)